

令和8年9月28日

令和8年度スマート農業技術実証ほ場見学会(第3回水稻実証)の開催について

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を受けた被災地域15市町村では、農業の担い手不足が大きな課題となっています。

そのため、スマート農業技術を活用した農作業の省力化と農業生産の向上を図ることを目的に公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構では、地元農業法人等の協力をいただき実証事業を実施しています。

今回は、食味・収量コンバインでの収穫作業と収穫量データの利用等について説明する実証見学会を開催しますので、取材をお願いいたします。

記

- 1 日 時 令和8年10月2日(金) 10時00分～11時30分
- 2 場 所 株式会社紅梅夢ファーム現地ほ場
(南相馬市小高区塚原銀田、八重生地内、地図を参照に、のぼり旗を目印においでください)
- 3 主 催 (公財) 福島イノベーション・コースト構想推進機構
- 4 協 力 株式会社 南東北クボタ
株式会社 紅梅夢ファーム
- 5 内 容 (1) 10:00～10:30
モニター及び資料による事業内容の説明
(2) 10:30～11:30
食味・収量コンバインによる収穫作業の取材
- 6 その他 作業は予定時刻に開始しますので、時間までにお出でください。
なお、当日の天候が雨天の場合、作業及び見学会は中止となります。
※当日の作業実施のお問合せ：024-581-7049
(福島イノベーション・コースト構想推進機構 産業集積部
副部長 佐々木)

(問い合わせ先) 福島県農林水産部 農業担い手課

主幹 星 輝幸 電話：024-521-7343 (直通)、内線 3175

令和8年度イノベ地域におけるスマート農業技術実証事業について

1 目的

福島イノベーション・コースト構想の対象地域（以下「イノベ地域」と言う。）等に農業参入した企業等にとって、経営の拡大と生産性の向上のため、更なる作業の省力化・効率化を図ることが重要である。

このため、現地ほ場においてスマート農業技術を実証し、その成果を広く紹介し、本地域に適したスマート農業技術の普及・定着を推進することを本事業の目的とする。

現地実証は、イノベ地域の基幹作物である水稻と、畑作物のうち震災後新たに産地化が進んでいる甘藷（サツマイモ）で実施する。実証結果は、令和9年1月開催予定の検討会において成果報告を行う。

2 実施主体

（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構

3 実証内容

（1）水稻

除染による表土除去の結果、地力のばらつきの大きいほ場での移植栽培の基幹作業において、スマート農業機械を活用する。前年度の収量データや衛星データを活用した可変施肥を行う他、衛星・ドローンによる画像データ解析の活用による生育や病虫害の診断を行い、追加施肥や病虫害防除の効果などを実証する。

予定している委託事業者及び農業者、実証場所等は以下のとおり

委託事業者：株式会社南東北クボタ

実証農業者：株式会社紅梅夢ファーム

現地実証ほ場：南相馬市小高区塚原銀田、八重生地内

実証期間：令和8年4月～11月

（2）甘藷

耕耘、畝立て、管理作業、病虫害防除、収穫等の基幹作業において、アシスト機能付きの高性能機械の活用による作業の効率化を実証する。

予定している委託事業者及び農業者、実証場所等は以下のとおり

委託事業者：ヤンマーアグリジャパン株式会社

実証農業者：株式会社福島しろはとファーム

現地実証ほ場：檜葉町上繁岡才連 67

実証期間：令和8年5月～11月

